

**安全、確実な広域最終処分場の建設に向けて**

高山 ゆづ子(みらい)



**問**／当市が次期処分場候補地になった経緯は。

**答**／過去に茶屋ヶ原・吉浦地内、宮野尾地区が候補に挙がったが、地元の理解が得られず断念に至った。経済活動の支えや災害対応としても重要な施設であり、県では、引き続き市内での候補地選定を行うこととした。

**問**／県は整備候補地を地元の土地所有者等に一般公募したが、応募はあったのか。

**答**／2件の応募があった。

**問**／エコパーク出雲崎は元々畜産団地だった場所であるが



海拔50mと比較的高い土地にある。今回の建設条件に地震や津波災害等の検討はしているのか。

**答**／選定条件の中に立地回避区域として、活断層付近、浸水想定区域等を除外している。

**問**／受け入れる産業廃棄物は具体的に何になるのか。出雲崎と同じ石膏ボード、瓦礫類なのか。

**答**／エコパーク出雲崎とほぼ同じ産業廃棄物と聞いている。

**問**／最終的に決まる候補地の住民が反対した場合はどうか。

**答**／市としては、住民の合意なしに進めるつもりはない。

県は住民の理解が得られるよう、丁寧に説明していくことである。



**新たな都市(まち)づくりへの誘導策は**

丸山 章(無所属)



**問**／高田と直江津は今まで多くの政策・施策を講じ、質的向上のまちづくりを推進してきたが、

あまり成果が出ておらず、双方の誘導重点区域は空き家が増え、人口減少が顕著になっている。その原因や課題等を浮き彫りにし、新たなまちづくりへ誘導することが肝要と考えるがどうか。

**答**／まちなか居住推進事業として高田を「雁木町家」「一般住宅」「高度利用」の各エリアに分け、対象となる25の町内会長へ課題や事業の説明等を行い、5つの町内をモデル候補地とし、実現可能なモデル事業の検討を行っている。直江津も同様の取組を行うための検討に着手した。

**廃棄物の広域最終処分場 整備への対応は？**

**問**／最終処分場の廃棄物の処理方法や環境面等の対策に関する市の考え方と県への対応は。

**答**／廃棄物を安全、安定的に処分する機能を備え、周辺の自然環境や生活環境への影響を最小限にとどめ、地域の理解を得られる施設であるべきと考える。今後も県と協議を重ね、進める。

**問**／候補地を選定の上、令和3年度以降に県が建設予定地を決定するとしているが、その際、地元住民等の意向への対応策について聞きたい。

**答**／候補地が絞り込まれた際、県は具体的な情報を示すとの意向であり、市も県に地元住民等への丁寧な説明を求め、協力・支援していく。

**公共施設のバリアフリー化を**

平良木 哲也(日本共産党議員団)



**問**／公共施設におけるバリアフリー化を含むユニバーサルデザイン推進の進捗状況はどうか。また、どう評価しているか。

**答**／対象となる586の公共施設の適合率は令和元年度末で66・1%であり、令和4年度末の目標67・3%の達成に向けて順調と考えている。

**問**／目標設定は妥当なのか。あればなお良いというような消極的な考えはないか。

**答**／計画を作った20年前はともかく、時代が大きく変わる中で、障害者などに寄り添った施設の改修をしていく必要がある。目標の見直しを含め、市民が等しく便益を享受できる施設ありようを考えていく必要があると考えている。

**問**／ユニバーサルデザイン指針に基づく修繕計画はあるのか。統一的に把握できているのか。

**答**／個々の施設の修繕計画はあるが、ユニバーサルデザインに特化した計画は作っていない。

**問**／担当部署が全体の進捗状況や今後の課題、見通しを把握し、他の部署への働きかけや促しが必要ではないか。

**答**／現実的に困っている方にお聞きして優先順位をつけることは当然必要だと考える。担当部署に確認し、仕事の進め方について整理する。



高田城趾公園の多目的トイレ